



「笑顔とつながり」

永田台

ユネスコスクール11周年

No.547 7月号
横浜市立永田台小学校
TEL(714)4277
令和3年6月30日



進んであいさつ
笑顔あふれる
住みよいまちに



SDGsを身近に感じる

校長 武山 朋子

このところ、いろいろなところでSDGsのカラフルなアイコンを目にします。「持続可能な開発目標 (SDGs)」とは、「将来に向けて、地球上でくらすあらゆる人たちが、より幸せに生活していけるように、世界中の国が約束した17の目標」のことです。「2 飢餓をゼロに」「10 人や国の不平等をなくそう」などという、なんだかとても壮大で、自分たちからは遠いことのように感じるかもしれません。でも、大切なのはその実現のために、一人一人が自分の身近なところから未来を変えるヒントを見つけて、小さな一歩を踏み出すことです。そして永田台小学校では、そのために必要な、見つけようとする目、踏み出そうとする勇気、そして一人ではなく様々な人とつながって実現しようとする実行力、それらを育てようと取り組んでいます。

先日、南区国際平和スピーチコンテストが行われ、本校からは6年の小枝瑚青さんが代表として参加しました。そのスピーチの一部をご紹介します。そのスピーチからは、遠い世界のこととしてではなく自分に引き寄せて考え、しっかりとした眼差しで未来を見つめる小枝さんの姿が、浮かび上がってきます。



水という宝をみんなに

六年 小枝 瑚青

(環境絵日記の展示会、生きるために汚れた川の水を飲んで命を落とした子どもについてかいた、貧しい国の小学生の作品を見て、小枝さんは自分と、当たり前前の違いを感じます。その時「この絵に興味があるの。」と一人の男性に話しかけられました。)

私がうなずくとその人に「その絵日記をかいた人に手紙を送ってみる。」と聞かれ、なぜ水道ではなく川の水を飲むのかわりたくて手紙を書くことにしました。私に声をかけてくれた男性は、青年海外協力隊として、水道がない国で水道をつくる仕事に携わっている人でした。その人と話すことを通して、水道がない国についての興味をもち、水の大切さに気付きました。ですが、今の私には水をこまめに止めることや、シャワーの水をちゃんと止めることしかできません。しかし、ユネスコスクールである永田台小学校の日々の勉強を頑張り、今、世界が直面している環境問題について学び知ることは、今の私にもできることです。

(中略)

私はそんな悲しい思いをする人を少しでも減らすために、将来は青年海外協力隊の一員となって、水道がなくて困っている国を、あの男性のように助けたいです。男性は最後わたしに、「あと十年、夢が変わっていかないければ、待っているよ。」と声をかけてくれました。そのおかげで今も夢は変わっていません。そして私は自分の手で、救える命を救います。